

B-137 被服における縞柄の配色のイメージと効果
梶山女学園大家政 ○加藤雪枝 梶山藤子

目的 被服における縞柄の用途は従来より極めて多い。そこで等巾間隔の2色を配した縞柄のベーシックワンピースを着用したさいのイメージを明らかにするとともにイメージと配色の関係を検討した。個性の相違、縞の太さを考慮し、カラーシミュレーターを用いて配色を変化したものを評定した。この評定値を因子分析してイメージを求め、MDA-U0により評価語と配色構成色の配置を求め、 e_{ij} 型数量化法によって各イメージに関する空間構成を行い、縞の太さと個性の相違による配色効果について検討した。

方法 等巾間隔の縞柄0.7, 1.4cm巾を用いて、ベーシックワンピースを個性の異なるモデル2名に着用させカラーシミュレーターにより、各モデル、縞の太さ毎に基本色12色を用いて2色のすべての組合せをカラーライドにした。着装的イメージを求めるため、15形容詞対を送出し、本学学生を被験者としてSD法による5段階評価を行った。この平均値より主因子解による因子分析を行い、各因子を代表する評価語を用いてMDA-U0により解析し、評価語と構成色の配置を求め、各色とイメージの関係を追求するとともに e_{ij} 型数量化法により、イメージを代表するものの空間構成を行った。

結果 縞柄ワンピースのイメージはオ1因子が力量、オ2因子が活動、オ3因子は評価、オ4因子は暖かさの因子であり、4因子であらわされる。力量の因子では一般に暗い色を配色した縞はほっそり、きつく、活動の因子においても地味でオーソドックスなイメージを与える。評価の因子は濃い色との配色は調和し、ひきたてあう。暖かさの因子については暖色系の色が暖かく、くどい。いづれの因子にも個性、縞巾の影響は僅少である。